様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２７ 日現在

機関番号：２３９０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2022
課題番号：１７Ｋ０３０４５

研究課題名（和文）1957年モスクワ平和友好祭と日本：冷戦下の「敵国」文化受容の比較研究

研究課題名（英文）Moscow Youth Festival for Peace and Friendship in 1957 and Japan

研究代表者
半谷　史郎（HANYA, Shiro）

愛知県立大学・外国語学部・教授

研究者番号：９０７３１４０６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：　モスクワ平和友好祭の参加者である十数名に聞き取りを行うとともに、手記や回想録を収集した。また、ロシアと日本の公文書史料を入手したほか、写真・パンフレット・バッヂ・記録映像などのビジュアル資料も多数手に入れた。
　モスクワ平和友好祭と日本とのかかわりは、これまで歴史研究の対象になってこなかったが、以上のような豊富な資料から、日ソ交流史の貴重な一コマとして叙述することが可能になった。
　研究成果を広く紹介するため、ホームページを作成した（「1957年モスクワ平和友好祭」 https://1957moscow.com）。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　日ソ国交回復から半年あまりの時期にソ連を訪れた若者の体験談をまとまった形で記録に残すことができた。
　冷戦下の「敵国」を当時の日本人がどう見ていたのかを物語る記録は、まだ外国旅行が極めて限られた人々の特権だった時代だったことも相俟って、戦後の日ソ交流史を考える貴重な材料を提供してくれる。

研究成果の概要（英文）：I interviewed more than a dozen participants in the Moscow Youth Festival, and collected their memoirs and memoirs. Moreover, I obtained official historical materials from Russia and Japan, a large number of visual materials such as photographs, pamphlets, badges, recorded videos.
 Until now, the relationship between the Moscow Youth Festival and Japan has not been the subject of historical research, but it is now possible to describe it as a valuable piece of the Japan-soviet cultural history.
 A website was created to widely introduce research results: Moscow Youth Festival for Peace in 1957, https://1957moscow.com

研究分野：日ソ交流史

キーワード：平和友好祭　オーラルヒストリー　文化交流　日ソ関係

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

1957 年にモスクワで開催された第 6 回世界青年学生平和友好祭（以下、平和友好祭と略）には日本から 150 名余りが参加した。単に参加したのみならず、芸術部門のコンクールで軒並み優勝者を輩出した。前年末の日ソ国交回復から半年あまり。外国旅行が極めて限られた人々の特権だった時代の出来事である。

モスクワ平和友好祭は、ソ連の文化史を語る上では特筆すべき出来事としてつとに名高い。外国からの影響を恐れて長らく「鎖国」状態にあったソ連が、1953 年のスターリン死去と 56 年のスターリン批判を経て旧来の方針を転換し、131 カ国から 3 万 4000 人もの外国人を二週間にわたって受け入れたこの祭典は、ソ連の人たちが外国人と直接ふれあったほぼ初めての体験であり、交流を通じてジーンズやロックに象徴される西側の最先端の文化がソ連にもたらされた。リチャード・スタイツは「文化史の大きな転換点」と評しているし、ソ連解体はこの時から始まったとみなす見方さえある。近年になっても、当時は一介の新聞記者だったノーベル賞作家ガルシア＝マルケスの実見ルポが発見されて注目されたり、公文書史料に基づく研究がいくつも出たりするなど、依然として関心が高い。

しかしながら、この祭典と日本とのかかわりは、まったく忘れ去られている。参加者が 150 名もの大人数であり、8 月 6 日の原爆記念集会の実施や各種コンクールの参加・優勝まで、多様な活躍をしたのにも関わらず、である。

実は申請者二人も同様で、この事実を知ったのは全くの偶然だった。2014 年末のことだが、半谷が日ソ文化交流の資料として集めていたソ連の記録映像が縁で、平和友好祭の芸術部門の日本代表だった方が半世紀以上も続けている「パジャルスタ会」という同窓会の存在を知る。2015 年 4 月にはそこにお邪魔して十数名の人から様々な 1957 年のソ連訪問の思い出を聞かせてもらった。さらに夏から秋にかけて、何人かの人と個別に面談して、コンクールの様子などを伺う機会を持った。

以上は断片的な聞き取りにすぎなかったが、海外渡航がままならなかった当時、外国へ行ける絶好の機会として参加した人が見聞きした「敵国」ソ連の姿は、思想的な先入観が少なく、率直なものとの印象を受けた。これまで全く注目されてこなかったが、日本人のソ連観や社会主義文化の受容といった点からみて、後世に残すべき貴重な歴史の証言であるとの思いを強くした。

このため関係者の聞き取りと調査・研究を大々的に進めるために科研費の申請を行い、2017 年 4 月、幸いにして採択された。

２．研究の目的

85 歳前後（研究の申請時）の高齢となった人々への聞き取り調査を行い、写真やパンフレットなどの思い出の品々を拝見させていただきながらライフヒストリーを聞き取り、彼らの生涯において友好祭がどんな意味を持ったのかを探求するのが主な目的である。また日ソ国交回復の半年後で、外国旅行が極めて限られた人々の特権だった時代に、「敵国」ソ連を訪問した若者たちの眼に、モスクワやレニングラードは、そしてシベリア鉄道で通過した町々、そこで出会った人々、そして外国からの参加者はどのように映ったのかを明らかにすることで、冷戦下の「敵国」との国際交流の実態に迫る。

日露・日ソ交流史の研究は、長い歴史と蓄積を持つが、大部分は昭和初頭までの時期に集中している。日ソ交流についても革命直後のものが大半であり、戦後の交流を扱ったものは極めて少ない（社会主義ソ連に対して圧倒的に否定的イメージがある現在、少しでもソ連文化を肯定することは研究者から敬遠されているためだろう）。こうした中、日ソ交流史の研究時期を戦後へと進めることも、本研究の重要な目的である。

３．研究の方法

聞き取りや手記・史料などの収集を行った。

（1）聞き取り

- 上述した芸術代表団の同窓会である「パジャルスタ会」のメンバー：川村秀、後藤すみ子、河崎保、鈴木巌、三上弥太郎、薄井憲二、河崎美智子
- その他、日本代表：長崎眞人、川端香男里、安井侑子、小川義男
- 平和友好祭と同時開催の友好スポーツ大会の参加者：石澤二郎
- 日本代表ではない関係者：城田俊、長瀬隆、田中雄三　　以上、計 15 名

（2）手記

当時の新聞・雑誌記事に発表された紀行文や旅行記、後年にまとめられた回想録などを網羅的に収集した。亡くなられて聞き取りが叶わなかった方々の手記も数多く見つかった。

（3）史料

モスクワの公文書館で平和友好祭に関する史料を収集したほか、情報公開請求制度を利用して日本外務省が保有する公文書を入手した。また平和友好祭実行委員会が旅券不交付で日本外務省を訴えた裁判の判決文も有益な史料だった。

（4）その他

聞き取り時に写真やパンフレット、当時のビラなどを閲覧させてもらったほか、モスクワへの道中で集まったバッヂの寄贈を受けた。モスクワ平和友好祭を記念して出た絵はがきや、ソ連で撮影された記録映像も入手した。こうしたビジュアル資料は、当時の様子を想像する材料としてたいへん役立った。

４．研究成果

聞き取りに応じてくれた 15 名のうち、すでに 5 名が鬼籍に入られた。聞き取りを考えながら、亡くなられて実現しなかった方も多い。友好祭の参加者は、研究開始時の平均年齢が 80 代後半の高齢者で、聞き取りできるのは今が最後の機会だと思って取り組んでいたが、途中から時間との戦いであることを痛感したうえ、コロナ禍も重なって、十分な聞き取りができなかった恨みが残る。とはいえ、これまで注目されていなかったモスクワ平和友好祭と日本との関わりについて、それなりの人数の方に話を聞いて記録を残せたことは大きな成果である。

こうした集めた調査研究の成果を広く一般に知らせるため、ホームページを作成した（「1957 年モスクワ平和友好祭」 https://1957moscow.com）。

学術研究にとって一般的な論文や著書ではなく、ホームページという媒体を選んだのには、いくつかの理由がある。一つは、この間に収集した資料の特性に由来する。友好祭に参加した方に聞き取り調査をした際、写真、パンフレット、バッヂなど、様々な思い出の品を見せてもらった。一つひとつが当時の様子を想像できる貴重な資料だが、中には死後の散逸を危惧して寄託して下さる方もあった。そうして集まった資料は、論文にするのは難しいが、死蔵するのも憚られる。手を尽くして収集し、また信頼して託していただいた資料を広く世に紹介する手段は、ホームページが格好だと思えた。

もう一つは、今後の新たな情報提供への期待である。2022 年度だけでも写真家の田沼武能さん（享年 93 歳）と箏曲家の菊地悌子さん（享年 95 歳）の死去が報じられたように体験者が次々と世を去り、もはや新たな体験談を掘り起こすことは絶望的になっている。しかし、参加者の名簿（渡航した 150 人、当初計画の 500 人）をホームページで公開すれば、当事者の子や孫といった関係者から問い合わせが来て、新たな出会いが生まれるかもしれない。

以上のような理由から、これまでの調査で集めた様々な資料を公開するホームページの作成に踏み切った。作成の過程では、川村秀氏から当時の日記と参加者名簿の提供を受けたほか、故・薄井憲二氏の遺品から発見された写真帖も盛り込んだ。また法政大学大原社会問題研究所には、所蔵する「友好祭ニュース」を提供いただき、修復保存の作業をした上で撮影し、資料としてホームページで公開することにした。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計6件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　6件）

１．著者名 梅津紀雄、半谷史郎	４．巻 59-1
２．論文標題 第3回国際青年友好スポーツ大会にみる雪解け期の日ソ・スポーツ交流 ： あるレスリング選手のソ連体験	５．発行年 2021年
３．雑誌名 工学院大学研究論叢．第59-1号	６．最初と最後の頁 81-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.57377/00000089	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 半谷史郎	４．巻 54
２．論文標題 バレエ評論家・薄井憲二のソ連体験--シベリア抑留とモスクワ平和友好祭の思い出（下）	５．発行年 2022年
３．雑誌名 愛知県立大学外国語学部紀要　地域研究・国際学編	６．最初と最後の頁 249-273
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15088/00004837	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 半谷史郎	４．巻 52
２．論文標題 バレエ評論家・薄井憲二のソ連体験--シベリア抑留とモスクワ平和友好祭の思い出（中）	５．発行年 2020年
３．雑誌名 紀要．地域研究・国際学編（愛知県立大学外国語学部紀要）	６．最初と最後の頁 275-301
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15088/00004225	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 半谷史郎	４．巻 51
２．論文標題 バレエ評論家・薄井憲二のソ連体験 ： シベリア抑留とモスクワ平和友好祭の思い出(上)	５．発行年 2019年
３．雑誌名 紀要．地域研究・国際学編（愛知県立大学外国語学部紀要）	６．最初と最後の頁 277-301
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15088/00003811	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 梅津紀雄、半谷史郎	4．巻 32
2．論文標題 「邦楽4人の会」の誕生 ： オーラル・ヒストリーの中のモスクワ青年学生平和友好祭（1957）	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Slavistika ： 東京大学大学院人文社会系研究科スラヴ語スラヴ文学研究室年報	6．最初と最後の頁 191-212
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15083/00074051	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 半谷史郎	4．巻 19
2．論文標題 1957年モスクワ平和友好祭--ある日本人参加者の思い出(下)	5．発行年 2018年
3．雑誌名 愛知県立大学大学院国際文化研究科論集	6．最初と最後の頁 267-288
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15088/00003449	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

調査研究の成果を広く一般に知らせるため、ホームページを作成した（「1957年モスクワ平和友好祭」 https://1957moscow.com）。

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	梅津　紀雄 (UMETSU Norio) (20323462)	工学院大学・工学部・講師 (32613)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関